

GPVデータを使用した LNG基地の航行管理用風況・波浪予測システム

本システムは、LNGタンカーが入港する際、運航管理チームが入港の可否を判断するために必要な風況・波浪情報として参考利用するものです。

従来、(一財)日本気象協会が提供する予測システムを導入していましたが、予測精度が低い点と、対象海域の風況・波浪を示す地図が荒いためきめ細かく風況・波浪を把握することが困難でした。

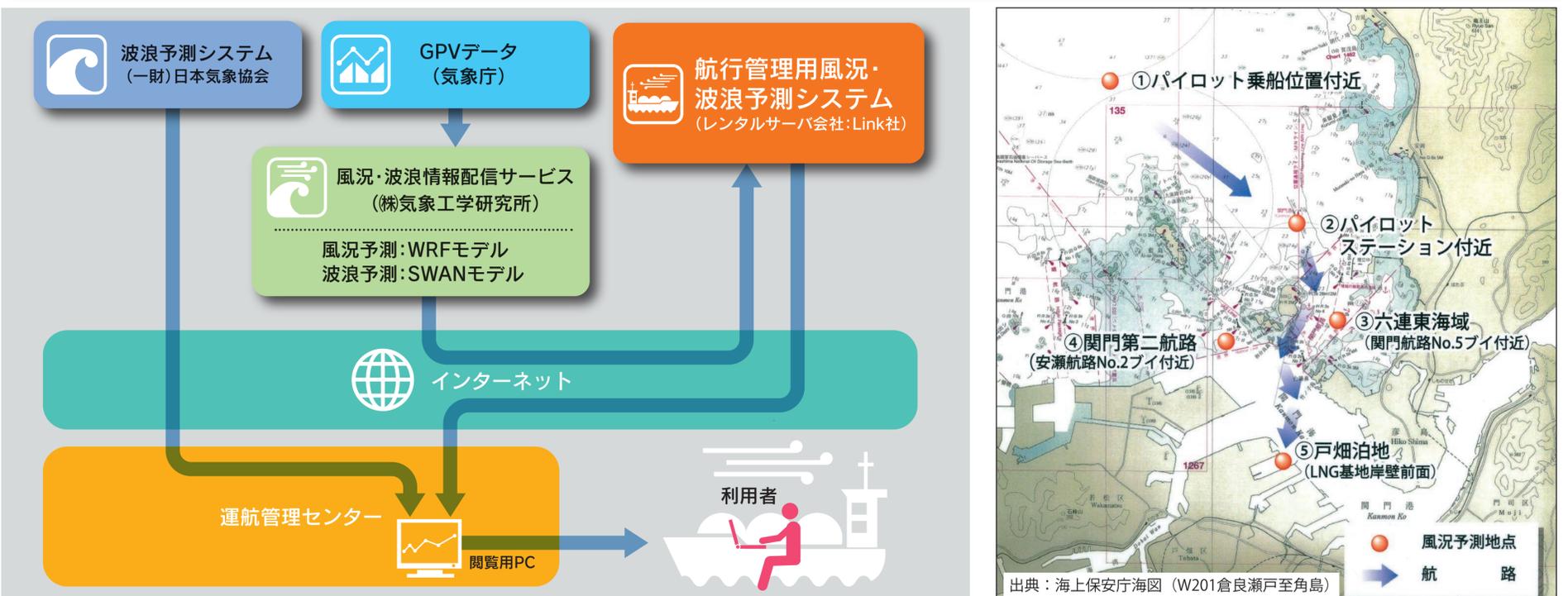
そこで、気象庁が配信するGPV(Grid Point Value)データを受信・補正・加工することによって、より実際に近い予測値を提供し、わかりやすく地図表示できるシステムの構築を図りました。

航行管理用風況・波浪予測システムは、7日先までの予測が可能です。



船名：GRAND MEREYA

システム構成

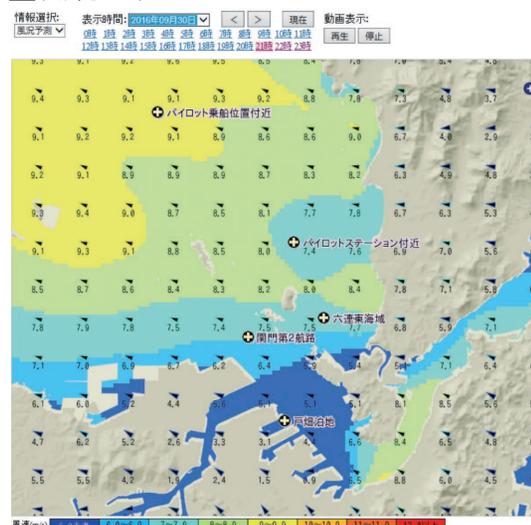


機能概要

■ 配信データ仕様

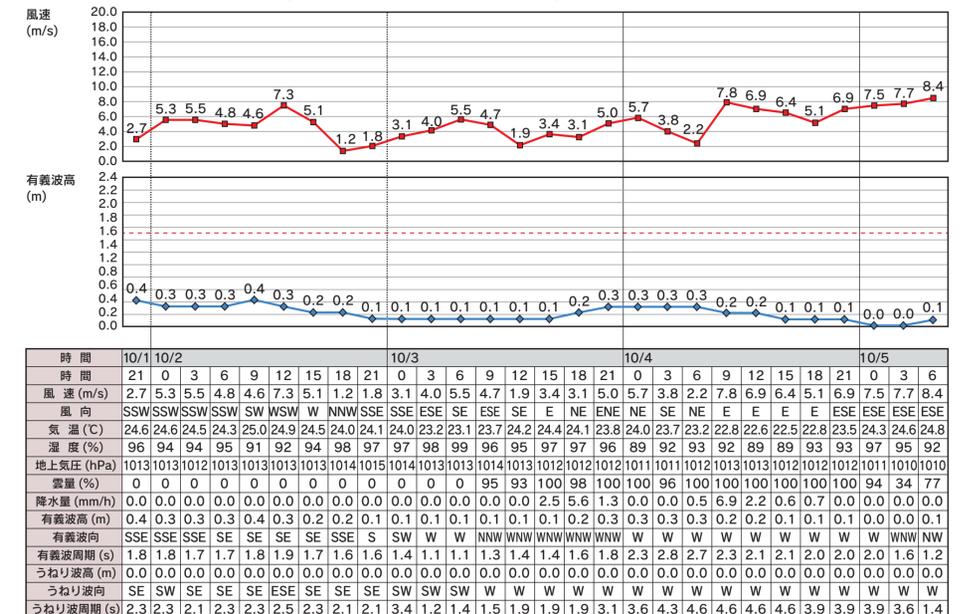
	風況予測	波浪予測
計算格子間隔	約1km間隔	約0.1km間隔
予測期間(時間間隔)	3日間先予測(1時間間隔) 7日間先予測(1時間間隔)	
更新間隔	3時間に1回(3日間先予測) 6時間に1回(7日間先予測)	
予測精度	相対的に高い(3日間先予測) 相対的に低い(7日間先予測)	
矢印マップ表示間隔	約2km間隔	約2km間隔

■ 風況マップ



■ 時系列グラフ

P1: パイロット乗船位置付近 (2016/10/01 21:00JST~)



■ 納入実績

北九州エル・エヌ・ジー株式会社 / 大分エル・エヌ・ジー株式会社